

ユリノキ
の町から

風の便り 78

2025 (令和7) /4/1.
八千代・ゆりのき台 辻 秀幸

花プリン その2

花シリーズの花屋さん編です。

注：分類は、調べた資料のまま。資料によって相違あり

スターチス (被子植物 双子葉植物綱 ナデシコ亜綱 ナデシコ目 イソマツ科 イソマツ属)



植物の分類法は幾つもあるという。このスターチスについては、リモニウム属とする資料がある。分類法の相違かと思ったが、日本語か英語かというだけのことであった。



2023/11/24.

花に見える青いのは萼で、囲まれた小さい白いのが花。ほったらかしておくとドライフラワーになり、その時には白い花は散っている。

ダリア (被子植物 真正双子葉類 キク類 キク目 キク科 キク亜科 ハリシャギク連 ダリア属)



ナポレオン・ボナパルトの奥さんが氣にいて、自分の花と決めて国外への持ち出しを禁じた。それなのに他国でも咲き始めたことを知って激怒。庭からすべて撤去、栽培をやめたと伝わる。花言葉「気まぐれ」の由来です。



2024/4/29.

ダリアも人々も自分の思うがまま、と
考えていたのでしょうか。単純明快、そ

して怖いヒトだったのだらうなあと思像します。

皇帝ダリア (コダチダリア。キダチダリア) という仲間があるが、ナポレオンには関係ない。姿が高貴だ、ということからとされる。

センニチコウ (被子植物 双子葉綱 ナデシコ亜綱 ナデシコ目 ヒコ科 センニチコウ属)



お線香かと思う名だが、千日紅と書き、千日くらい飾っておけるというのが名の由来。仏壇にも良く飾られるというから、少しお線香に縁がある。



ドライフラワーにもし易いので、花瓶の水が無くなくても気づかない私みたいなお方向に
2023/11/24.

カーネーション (被子植物 真正双子葉類 ナデシコ目 ナデシコ科 ナデシコ属)

2024/4/10.



シェークスピアの時代に冠飾り (coronation flower) に使われたことが名前の由来という。



5月の第2日曜日は母に感謝を表す日。100年ほど前、アンナ・ジャービスという女性が亡き母を追悼するため教会で白いカーネーションを配ったことから始まった、とされています。日本では、学校が音頭をとって子供たちが赤色の造花を胸に挿しました。生存中の母に感謝をと想定していたようです。では母のいない子はどうするんだということでこちらには白色が選ばれました。その後、赤白の区別が問題になったと記憶しています。今風にいうならいじめや差別につながる、ということでしょうか。そんなこんなで現在は母がいても居なくても何色でもいいことになっているようです。

エリンジウム (被子植物 真正双子葉類 キク類 キキョウ類 セリ目 セリ科 ヒゴタイサイコ属)



思わず聞いた「花ですか」。

花ですと言われて見直すと、なにやら床しく見えてくる。

店に並べてから時間が経っているけれどよろしかったらということだったが、だから値引きしてくれたのかどうかは定かでない。若い頃

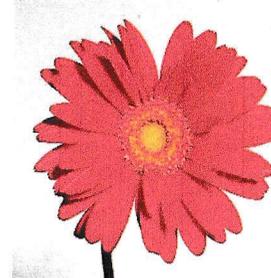


2023/11/24.

勤め帰りに寄るとひと茎ふた茎おまけしてくれる店があった。

ガーベラ (被子植物 双子葉植物綱 キク類 キク目 キク科 ムティシア亜科 ムティシア連 ガーベラ属)

発見者ドイツの博物学者トラウゴット・ゲルベルの名前からの名付けだそうです。学者の名前を付けられてアタマは発達したけれど支えが追いつかなくて、茎が折れ易く花がうなだれることがままあります。人間世界では、数学の証明問題にのめり込みすぎて、心のバランスが崩れたのでしょうか、人との交わりを断った学者がいたとか。それほどに魅力ある世界とは、数字を見るだけで花粉症になる身ではまったく理解不能。ご本人は満足なのか心やすらかなのか。それとも魔宮の闇の中か。



2023/11/8.



片岡さんから、ご自宅上空をうるさく通過する米国の大型軍用輸送機の写真を送っていただいた。むかしむかし、飛行場巡りしたことを思い出しました。その時の古い写真から2枚をご紹介します。ヒコーキに興味はないでしょうが、思い出に生きる私の唯一の話のタネですのでじっと耐え忍んでください。



1枚目は米空軍戦闘機コンベア F-102。横田基地での撮影。立川基地が返還されるより前です

横田は、片岡氏お悩みの騒音の集散地。駅を降りるとすぐに基地！ その頃から昼行燈だった私でも、こんな町の中であって大丈夫だろうか、とメモしています。

朝鮮戦争末期、ジェット戦闘機の自信作を送り込んだところ、ソ連のミグ Mig-15の方が優れているとわかりおおあわて。大金をそそいで兵器開発に熱中します。戦争が科学や技術を発展させるとも言われます。軍用機も様々な試行錯誤が行われました。当時のヒコーキ雑誌には毎号のように「高性能機」や「最終兵器」が、美しいグラビアで紹介され、殺戮・破壊の道具だなんて考えもしないヒコーキ少年にはワクワクする時代でした。この戦闘機は、ナチス時代のドイツで研究された、ジェット・エンジンによる高速飛行には三角（デルタ）翼が有効だというデータによる設計。失敗作とされます。写した時点ですでに過去機。写真では主翼は分かりませんが、写っている垂直尾翼と同じく紙飛行機のように三角形そのものです。水平尾翼はありません。現在も各国で三角翼が採用されますが、定規のような単純な形ではありません。



2枚目は入間基地での航空ショー。1枚目と同時期の撮影。朝鮮戦争末期に投入された当初はミグ15に後れを取りましたが、総合的に優れた性能なので、米国に組する諸国でも広く長く使われた米空軍戦闘機ノースアメリカン F-86。今では当たり前のような後ろに反った主翼を本格的に取り入れた最初とされます。この後退角もナチス・ドイツの研究が基になっています。ちょこっと突き出した鼻先がチャームポイント。軍隊ではないという建前の航空自衛隊でも採用しました。

空戦技術をショー化して見せるのがこの機による曲技飛行チーム「ブルーインパルス」ですが、多分その演技の一場面だと思います。雑誌で見るような写真が撮れたことだけで大満足の日でした。戦闘機の性能は、ショーで発揮するだけで済ませたいものです。

我慢の限界にまだ余裕がありましたら、「風の便り」No.6、8にも飛行場での写真を載せましたのでご参照ください。